

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 05038879 A

(43) Date of publication of application: 19 . 02 . 93

(51) Int. Cl

B41M 5/26
G11B 7/24

(21) Application number: 03221161

(71) Applicant: NIPPON COLUMBIA CO LTD

(22) Date of filing: 07 . 08 . 91

(72) Inventor: ISHIOKA TAKAYUKI
ONISHI ATSUSHI

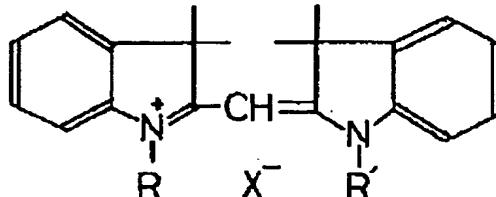
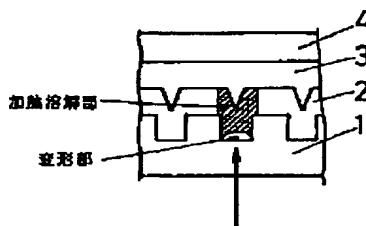
(54) LIGHT RECORDING MEDIUM

(57) Abstract:

PURPOSE: To record a high-density information by using a specific cyanine organic dye in a recording layer.

CONSTITUTION: An organic dye recording layer 2, a reflecting layer 3 and a resin protecting film 4 are provided on a light transmitting base plate 1 to form a light recording medium. At this time, the cyanine organic dye expressed by the formula I (wherein X⁻ represents ClO⁻⁴ and I⁻, R and R' represents CH₃, C₂H₅ and C₃H₇) is used in the light recording layer. By using such a dye, is obtained light recording medium on which the information higher in density can be recorded using the laser of a short wavelength.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-38879

(43)公開日 平成5年(1993)2月19日

(51)Int.Cl.⁵

B 41 M 5/26

G 11 B 7/24

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

5 1 6

7215-5D

8305-2H

B 41 M 5/26

Y

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号

特願平3-221161

(22)出願日

平成3年(1991)8月7日

(71)出願人 000004167

日本コロムビア株式会社

東京都港区赤坂4丁目14番14号

(72)発明者 石岡 貴之

神奈川県川崎市川崎区港町5番1号 日本

コロムビア株式会社川崎工場内

(72)発明者 大西 厚

神奈川県川崎市川崎区港町5番1号 日本

コロムビア株式会社川崎工場内

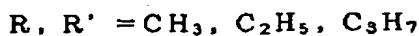
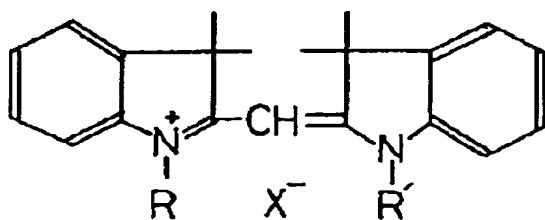
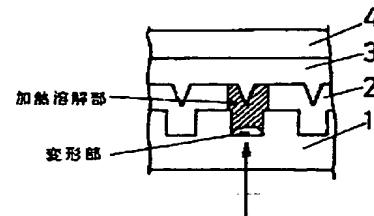
(74)代理人 弁理士 山口 和美

(54)【発明の名称】 光記録媒体

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 短波長レーザーを用いた高密度の情報記録が可能な光記録媒体を得る。

【構成】 透光性を有する基板1上に有機色素系の記録層2と反射層3と、樹脂保護膜4とを設けた光記録媒体で、光記録層に下に示すシアニン系有機色素を用いる。

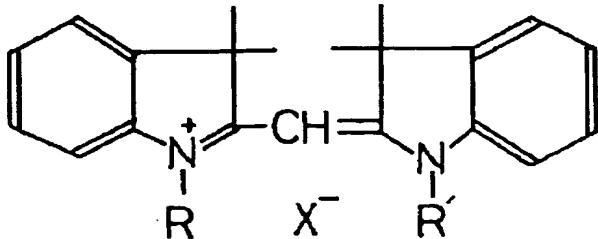


【特許請求の範囲】

【請求項 1】 透光性を有する基板上に記録層を形成し、該記録層の上に反射層を形成してなる光記録媒体に

* おいて、前記記録層を化 1 に示すシアニン系有機色素を用いたことを特徴とする光記録媒体。

* 【化 1】



$$X^- = \text{ClO}_4^-, \text{I}^-$$

$$R, R' = \text{CH}_3, \text{C}_2\text{H}_5, \text{C}_3\text{H}_7$$

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、レーザ光により情報を記録する光情報記録媒体に関し、コンパクトディスクの規格に準拠した再生が可能な記録媒体に係わる。

【0002】

【従来の技術】 記録可能な光情報記録媒体は、極めて広く普及しているコンパクトディスク（以下CDと呼ぶ）に準拠して、再生できることが望まれる。そのため多くの検討がなされているが、その一つとして、特開平2-87339号に開示されている技術がある。これらは有機色素系の記録膜と反射膜を用いて、レーザ光の入射側に反射する光量が、CDの規格を満足する高い反射率を得、且つ、データの再生に際しては、CDフォーマットに準拠する出力信号が得られる記録可能な光情報記録媒体である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 近年、より記録密度の高い光ディスクの開発が進められており、この記録密度を高めるため、光ビームのスポット径をより微少なものにしなければならない問題点があった。そのため、従来780 nmを中心とした半導体レーザから、SHG素子等を利用して、光の波長を短くしたグリーンレーザやブルーレーザを用い、これらのレーザを回折限界まで絞り込んで、ビームスポット径を小さくして記録密度を高める方法が進められている。

【0004】 当然のことながら、記録媒体もこれらの光の波長のビームスポットで記録できるものでなくてはならない。本発明は、より小さな記録スポットを用いることにより高密度化をはかる短波長のレーザで記録できる光記録媒体を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 そのため本発明では、透

光性を有する基板上に記録層を形成し、該記録層の上に反射層を形成してなる光記録媒体において、前記記録層を化 1 に示すシアニン系有機色素を用いたことを特徴としたものである。

【0006】

【実施例】 本発明による一実施例を図 1 の断面構成図によって説明する。図において、ポリカーボネートによる基板 1 の表面上に、シアニン系色素 NK-3212 (1, 1', 3, 3', 3'-ヘキサメチル-2, 2'-インドシアニンバークロレート) [日本感光色素研究所製] 0.08 g/r を、ジアセトンアルコール 3 ml に溶解した色素溶液をスピンドル法を用いて 2500 rpm でコートし、記録層 2 を形成する。

【0007】 続いて、この記録層 2 の表面に、スパッタリング法でアルミによる反射層 3 を 500 Å 成膜する。さらにスピンドル法によって UV樹脂をコートし、紫外線を照射して硬化させ、保護層 4 を形成する。以上の構成による光記録媒体にビームスポットを照射すると、図 2 で示すように、照射された部分は加熱溶解され、一部分解した色素とこれに接して加熱軟化した基板材料であるポリカーボネートが相互に作用して、色素層と基板との界面に変形部が形成され、これが記録ピットとなる。

【0008】 この記録媒体の色素記録層の基板側入射反射率を図 3 に示す。本実施例では、最大吸収波長が 420 nm となり、記録レーザーに 488 nm のアルゴンレーザーを用いた場合、基板入射反射率は約 80% となつて、CD-WO 規格の基板側入射鏡面部分反射率 R = 70% を十分に満足している。

【0009】

【発明の効果】 本発明によれば、短波長のレーザーを用いた、より高密度の情報を記録できる光記録媒体を提供することができる。

(3)

4

3

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例を示す断面構成図。

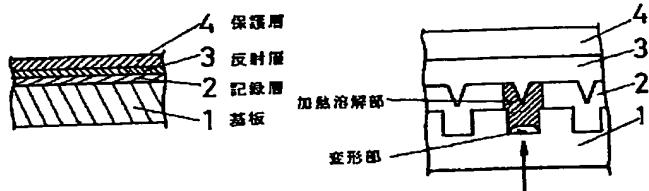
【図2】本発明による実施例の記録メカニズムを示す説明図。

【図3】本発明による実施例の特性を示す特性図。

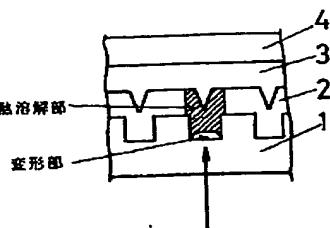
【符号の説明】

- 1 基板
- 2 記録層
- 3 反射層
- 4 保護層

【図1】



【図2】



【図3】

